

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971200340		
法人名	株式会社 ユニマット リタイヤメント・コミュニティ		
事業所名	くろいそケアセンターそよ風 (すみれ)		
所在地	栃木県那須塩原市豊浦南町83-120		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成28年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の小旅行や季節の行事等で季節を感じ気分転換を図っている。 ・毎日朝夕2回みんなの体操とリハビリ体操を実施している。 ・月1回の美食まつりと各県の郷土料理がある。 ・毎月個々人の目標を立て実施すればシールを貼り達成感を図っている。 ・毎日好きな歌を歌っている。 ・毎月カレンダーの色塗りをして居室内に貼っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、デイサービスおよびショートステイとの3事業の複合施設の2階に設けられている。研修やイベントを共催するなど複合施設としての利点が多々ある一方で、火災や災害時には2階からの避難誘導が課題となっており、近隣住民の協力を要請し、様々な避難方法を現在試行検討中である。家族の希望にそって、家族と医療関係者、職員の協力のもとに看取りを行っている。利用者の高齢化・重度化に伴い、事業所で看取りを希望する家族が増えて来ると思われることから、家族の協力や医療機関と連携を取るなどの条件が整えば、今後も看取りの希望を受け入れていきたいとしている。子ども神輿が休憩のために事業所に立ち寄り、事業所のイベント等に幼稚園児や小中学生が来たりするなど、地域の子どもたちとの交流が活発に行われている。「一人ひとりを尊重し、馴れ親しんだこの町で、明るく生き生きと暮らし続けられる」よう、事業所の理念に沿ったサービスが提供されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、全職員で会社の理念を唱和している。GHの朝礼後にGHの理念を唱和している。馴れ合いから生じる言葉には注意し、地域の中で穏やかに過ごせるよう理念の内容を理解し、サービスの向上に取り組んでいる。	「一人ひとりを尊重し、馴れ親しんだこの町で、明るく生き生きと暮らし続けられる」が事業所職員の作成によるグループホームとしての事業所の理念である。入居時に聞きとったこれまでの生活歴を活用し、編み物など得意分野を取り入れたり、利用者との会話に昔の話を持ち出したりしている。また、月毎に「歌を歌う」、「廊下を歩くようにする」など個別目標をたて、達成状況も壁に貼ったカレンダーで目視できるようにするなど、理念を共有し実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し一斉清掃等に参加している。近隣の方から庭の花が咲いたと声を掛けられ散歩に行き、花を頂く。また、併設事業所との合同行事には、地元幼稚園児や学生ボランティアをお願いしている。中学生のマイチャレンジの受け入れをして、地域とのつながりを大切にしている。	地元のお祭りでは子ども神輿が休憩を兼ねて事業所に立ち寄ってくれ、事業所の敬老会やクリスマスに幼稚園児が歌を披露したり、小中学生が来て利用者とカルタやトランプ遊びをしたり歌を披露するなど地域の子どもたちとの交流がある。地元の自治会にも加入しており、事業所の納涼祭には近隣の人が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内秋祭りの子供みこし休憩所となり地域住民との交流の場となっている。また、当センターの納涼祭やお知らせ等を行政区回覧板に入れて頂き理解と協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催。入居者代表、家族代表、自治会長、隣町自治会長、民生委員、行政担当職員、地域包括職員の参加、内容に合わせ警察署員、消防署員、介護相談員を招いて意見や情報交換、当ホームの現状報告、年2回は行事見学に参加していただき当ホームの理解を得ている。	運営推進会議は2ヶ月ごとの年6回開催されている。会議で地域の人から紹介された地域の避難訓練に参加したり、災害時の避難誘導に地域の協力が必要と提案され、地域の人が施設内見学を行ったりして、会議で話し合われたことが運営に活かされている。警察署員、消防署員、介護相談員を招いて講話を聞き、情報交換なども行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に相談したり、連絡を取っている。運営推進会議に参加され、意見や情報交換を行っている。毎月の行事や利用者状況、入退者、事故等を伝え、内情を知っていただき理解を得ている。	市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、会議では市からの情報提供や事業所の状況報告があり、意見交換も行われている。市役所と距離が近いこともあり、利用希望者や利用者の入退居などについてこまめに相談するなど市とは密接に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全職員が正しく理解し、定期的に勉強会を実施している。何かがあればミーティングを開き拘束に当たらない対応を考えていく。また、言葉の拘束にも注意を払い対応している。	身体拘束に関しては併設の施設と合同で研修が行われており、参加できない職員には報告書で周知させている。これまでに身体拘束にあたる事例はないが、言葉使いについては普段から気をつけるようにしており、気になる言葉づかいに対してはその場で職員や管理者が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止、身体拘束廃止についての勉強会を実施したり、外部の研修へ参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用しているご入居者もおり、より深い制度を理解する為にも研修に参加し、勉強会なども実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に一通り説明を行う。その後質問等の有無を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱を設置し、自由に意見できるようにしている。また、契約書、重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口掲載し説明している。日頃からご利用者との会話の中から要望を知り、ご家族の面会時にはご利用者の近況報告と共にご家族の意見を聞き入れている。	日頃の利用者との会話の中から要望を引き出すようにしており、面会時の家族との会話や年2回開催している家族会等で家族の意見等を聞く機会を設けるなど家族等の要望を運営に反映させている。家族からパッドの使用が多くなったとの懸念の声があり、トイレ誘導をより頻繁にしたことや、家族の要望を受けて事業所で看取りまで行ったなどの事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット毎のミーティングや個別面談を行い、朝夕の申し送りの中でも意見を出し合い、職員の意見等を聞く機会を設けている。	ユニット会議を月1回行い、利用者個人のケア等について話し合っている。買い物に行きたい利用者連れて行ったり、足が冷えているので足浴を取り入れるなど職員の意見を運営に反映させている。また、朝夕の申し送りの際にも職員の意見を出す機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用制度の中で一定期間で個別の面談、また、対象でない職員へも個別の面談を設け意見を反映出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を伝え参加を働きかけている。また、全体会議後に勉強会を行っている。不参加職員には勉強会資料を回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内で2ヶ月に一度の協議会を実施し、仕事の悩み等を意見し合い、交流や連携を図っている。また、市で定期的に開催される連絡協議会に参加し、交流や情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き生活の場を見てもらっている。ケアマネージャーや職員とご家族が面談し困っている事や本人の希望等を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とご入居者の要望や悩みを聞き取ったり、解決が出来るように話し合い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が、必要としている支援の相談等をされた時点で見極め、サービス利用調整を素早く行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の会話の中で、風習や個々の習慣を聞き入れ学ぶこともある。また、掃除、洗濯物等を共に行い共助の関係を努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を、電話や面会時にお話しし、毎月のお便りや写真でご本人の状況を把握して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の友人と交流が出来るように、併設の通所介護へ行き来できるよう配慮している。なじみの方の面会時、ご入居者居室にてゆっくりと過ごして頂き、再来所をして頂けるよう声掛けをしている。また、家族に来てほしいと希望されていることを伝える支援をしている。	入居前に通っていた併設のデイサービスに友人を訪ねて行けるよう支援したり、友人や近所の人など馴染みの人が面会に来た際には、居室でゆっくりと会話を楽しめるよう配慮している。持参した菓子を居室で利用者と一緒に食べていく人もいます。また、家族や馴染みの人に「本人が楽しかったようなのでまた来てください」と伝えるなどの心遣いもしている。高齢化・重度化に伴い、利用者の発する「家に帰りたい」という言葉が、自宅ではなく実家を指していることがあるなど、年々状況が変わってきているが、変化に応じた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の身体的、精神的問題を考えご入居者同士の良い関係が出来るよう席を工夫したり、助け合えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、新生活の相談にのり、継続的にご入居者をサポート出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人から、今までの生活歴やその思い、暮らし方の希望を把握し支援しているが、ご入居者自身からの思いや意向が聞き取れない場合、時間をかけ話の中から聞き出していくよう努めている。	利用者の高齢化・重度化に伴い、利用者自身からは思いや意向がなかなか聞き取れない状況にあるが、入居時の家族からの情報等から、昔の話をしたり出身地の方言を教えてもらうなど、時間をかけて会話の中から聞き出すよう努めている。編み物など昔の趣味を取り入れた支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャーに、これまでの生活様式を聞き取り、それを把握し、生活に活かしている。また、愛用の物を持参して頂けるよう声掛けを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の残存能力を把握している。また、体調の変化や生活の中で変化があれば、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活についての変化や課題があれば、より良い生活が送れるようサービス担当者会議を開催し、その中での意見を反映し、その人らしく暮らしていけるよう介護計画を作成している。	計画作成者担当者は、家族から状況や要望等を聞き取り、担当者会議で職員と話し合いながら介護計画書を作成している。さらに、介護計画書を基により具体的なケアの手順書である事業所独自の介護援助計画表を作成し、現場で活用している。6ヶ月ごとにアセスメントを行い、変更がある場合には家族と話し合い、担当者会議を開催し介護計画を見直している。	介護計画作成にあたって、家族や職員と話し合い計画に関係者の意見が反映するようにしているが、課題となっている来訪する機会が少ない家族等との話し合いの改善や家族も加えたサービス担当者会議の検討など、関係者との話し合いの強化に努めてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録や日誌に記載し、申し送りを行うとともに担当者会議で意見交換し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の通所介護や短期入所事業所との合同の行事の開催を行ったり、看護師の連携により体調管理に取り組んでいる。また、在宅診療による在宅療養管理指導により主治医と24時間連携が取れる体制となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、一斉清掃に参加している。また、散歩やドライブに出掛け、四季折々を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続可能な場合はご家族対応で、独居ご入居者やご家族対応が出来ない方は、提携医療機関による定期的な往診を受け、24時間医療相談を電話で可能になっている。受診内容はその都度ご家族へ電話で伝えている。	かかりつけ医の受診継続を希望する場合は家族が通院介助を行い、家族対応ができない場合等は提携医療機関による定期的な往診を受けている。往診に来ている医師は電話による24時間の医療相談に対応してくれている。必要に応じて歯科や口腔外科の往診も手配している。受診の内容は、家族対応の場合は家族から聞きとり職員間で情報を共有している。往診の場合も職員間で情報を共有しており、受診結果については家族に電話で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回バイタルチェックを行い、記録をしている。体調の変化に気づいた場合には施設内の看護師に連絡し受診の必要性がある時には速やかに対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退時に既往症や服薬情報を文書で渡せるようにしており、入院中は病棟訪問や看護・MSWと情報交換を行っている。入退時はケアマネージャーが同席し家族と主治医から説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療の対応が限られている為、入所時、重要事項説明書にて説明している。出来る限りの支援を行えるよう、医療機関との連携と勉強会を設けている。ご家族がGH利用を希望され、ご家族の協力を得て看取りを行った。	看取りについては、家族の希望があったことから、往診医やかかりつけ医、家族、訪問看護の協力のもと、昨年は1件、本年は2件取り組んでいる。その際には、緊急ミーティングを開き、職員や家族と話し合いながら対応している。利用者の高齢化・重度化に伴い、事業所で看取りを希望する家族が増えて来るとされることから、事業所としては、家族の協力のもと、医療機関と連携を取るなど、条件が整えば看取りを行う方針である。	今後も事業所での看取りを希望する家族が増えてくるとされることから、家族の協力、医療機関との連携、職員の研修など終末期に対応する体制を整え、利用者も家族も安心して最後まで託せる事業所として、これからも引き続き取り組んでほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会を行っている。また、看護師と連携し、ご入居者の容体変化等の緊急時には、速やかに対応できるよう職員の連携体制が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議で災害での対応について話し合いを行っている。消防署に伺い相談をしている。現在検討中ですが、緊急階段避難車のデモンストレーションを行う予定となっている。	昼間と夜間の想定で年に2回の避難訓練を併設施設と合同で行っているが、事業所が建物2階にあることから避難方法が課題となっており、対策を試行検討中である。地域の協力を得るために近隣住民の施設見学会を開いたが、その際に近隣住民から廊下に懐中電灯を置くことを提案されて設置するなど、近隣住民の協力を得られるように努力している。前回消防署より指摘を受けた防火設備の不備は早急に改善されている。	避難時や避難後の見守りなど災害時に近隣住民の協力を得られるよう話し合いを行い、避難訓練への近隣住民の参加が実現できるよう引き続き努力されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際の声掛けに十分配慮している。居室でのオムツ交換時にはドアを開け他者の目につかないようにしている。馴れ合いから生じる不適切な言葉かけや対応には、職員同士気を付け合っている。	トイレ誘導の際に、直接的な言葉ではなく「そこまで一緒にいかがですか」などを用いて周囲に気付かれない配慮をしている。入浴の際も、異性介助を嫌う利用者には同性介助とし、脱衣所から浴室への移動もタオルを使用して羞恥心に配慮するように心がけている。呼び方も「～さん」とするなど、馴れ合いから生じる不適切な言葉づかいや態度は行わないよう気をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉での説明を心がけ、本人の思いを傾聴し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や思いを汲み取り、その方のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った清潔感のある身だしなみが出来よう支援している。希望者には訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にテーブルを拭き、ランチョンマットの準備、食後は、食器片付けなど職員と一緒に、毎月美食まつり、郷土料理、冬は鍋フェア、外出時にはお弁当を買って食べている。食事で四季を感じ、変化を楽しんで頂いている。	利用者それぞれの食事ペースを守り、楽しく食事をすることで、好き嫌いも自然となくなり、残食も少なくなっている。以前は調理を手伝うこともあったが、高齢化が進み、現在はランチョンマットの準備・片づけや食器片づけなど、出来る範囲で手伝ってもらっている。毎月美食まつりがあったり、外出時にお弁当を食べたりなどの楽しみもある。家族の訪問時に居室で食事を一緒に行えるよう支援することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の嗜好や嚥下状態に合わせた食事の提供をしている。日々の食事、水分摂取量を記載し不足にならないよう気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々人に応じた口腔ケアを実施している。義歯は每晚預かり、洗浄し清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を行うことで、一人ひとりの排泄状態を把握し、声掛け誘導を行っている。病状の重度化に伴い、排泄の自立が困難になってきているが、現状維持が出来よう支援している。	トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行ってきたが、利用者の高齢化・重度化に伴い、排泄の自立が困難になってきており、現状を維持できるよう支援している。利用者の半数以上はリハビリパンツとパッドを使用しているが、各々の排泄パターンを把握し、タイミングを測って声掛けをし、トイレで排泄できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事の摂取状態を記録し把握する事で、水分や食事の量を工夫している。また、消化の良い物など食事内容を考慮している。散歩や朝の体操も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルの数値や顔色等を考慮し、入浴の不可を判断する。ご利用者の好みに合った湯の温度や入浴剤でより楽しんで頂けるよう支援している。体力的に入浴が厳しいご利用者は、清拭を行ったり足浴で対応している。	毎日午後の2時から4時位の間に、一人ずつゆったりと入浴している。職員は基本的には1人で介助しているが必要に応じて2人で対応する。併設の施設には機械浴と車椅子対応浴槽があり、現在は利用するケースはないが、必要があれば使うことができる。脱衣所や浴室、浴室床などを事前に温める配慮も忘れていない。好みのシャンプーやリンスを用意する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や前日の入眠状態を考慮し、日中でも居室で睡眠を取れるよう配慮している。定期的に布団干しや運動をすることにより、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが服薬する薬の効用を理解できるよう処方箋をファイルしている。また、準備の際、服薬個数を記入し、服薬時に服薬個数を確認し、二重チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者の趣味や生活歴を生かした役割、出番を作り、張り合いある生活が送れるよう支援している。また、ご入居者との会話の中で食べたいものを聞き、朝食やおやつに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に行っている。定期的に車を利用し、初詣、お花見、新緑、紅葉ドライブなどで、四季折々を楽しんで頂けるよう外出して気分転換を図っている。	晴れて暖かい日は事業所周辺を散歩するようにしているが、重度化に伴い車椅子の利用者が多くなっており、少人数の職員では対応が難しくなっている。散歩ができない時は、施設2階のベランダや1階駐車場に椅子を置き、日向ぼっこやシャボン玉を楽しんでいる。月1回の外出やドライブは利用者の楽しみでもあり、季節を感じる手助けとなっている。	重度化に伴い職員の対応も年々難しくなっているが、状況に応じて散歩など外出する機会を増やす努力を続けてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭出納帳があり、職員が管理を行っている。外出時や買い物には、ご本人にお金を渡し、会計をして頂く場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行っている。また、年賀状や暑中見舞いを書いて、家族や大切な人に出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花を置き、ご利用者と職員で作成した季節感ある作品を飾っている。また、台所や居間が共用の場となっており、ご利用者と職員が談笑したり家庭的な雰囲気を醸し出している。	共用の場である台所を兼ねた居間は、家庭用の冷蔵庫や食器戸棚が置かれ、季節感のある花や手作り作品が飾られており、家庭的な雰囲気を感じさせてくれる。隣接地には雑木林があり、居間の大きなガラス窓は林を借景とした絵画のようになっており、窓からは木々を通してやわらかい光が差し込んでいる。明るい居間には楽しげな笑声やゲームに興じる利用者の姿が途切れない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、好きなテレビやビデオや本を読んだり、体を休めたりできるソファを設置し、ご入居者同士が交流できるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の拭き掃除、雑巾掛けが出来るご利用者は、毎朝職員と行っている。塗り絵した毎月のカレンダーや作品を飾っている。使い慣れた物を使って頂き、本人の意向を優先し、安心して穏やかに過ごせる場所を工夫している。	程よい高さの机を兼ねた棚とクローゼットが作り付けられた室内は広くすっきりしており、広い窓から十分な光が差し込んでいる。カーテンは利用者が各自好みの物を取り付けており、使い慣れた鏡台や仏壇などを持ち込んでいる人もいるなど、それぞれ独自の居室空間を作っている。入口に部屋ごとに異なる暖簾を下げ、入居者の写真と共に飾り付けられた色紙を入口の脇に貼る工夫がしてあり、自室を理解する手助けをしている。居室の温度や湿度も適度に管理されており、常に快適な生活が送れるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き、洗濯物干し、洗濯たたみ、掃除など出来ることは行って頂き、自立して暮らせるよう支援している。また、特技や趣味を発揮でき生活に張りがあるよう支援している。		